



年中夢究

ねんじゅう

むきゅう

活動報告 県議会議員 三森ふみのり
三森文徳事務所
栃木県那須烏山市神長524
Tel. 0287-83-1258 Fax. 0287-83-1439

ごあいさつ



県議会議員
三森文徳

地域の皆様には、新春を迎えられ、ますますお元気のことがお慶び申し上げます。また、繰り返しの新型コロナウイルス感染拡大で、お集まりいただくことも難しい中、久しぶりに議会等の報告を会報という形でさせていただきます。

さて、栃木県は昨年に引き続き、一兆円を超える新年度予算を組むこととなりました。新型コロナウイルス対策費や国民体育大会開催費用などが増額の要因となっておりますが、これからの地域づくりのための「種まき」となる予算も我々議会の要望も聞いていただき、盛り込まれています。詳しくはこの後の知事との対談をご覧ください。また、新型コロナウイルス、新型コロナと向き合いながら、着実に地域の振興を成し遂げるべく、皆様のお陰で培ってきた長年の経験を活かし、自分の役割をしっかりと果たしてまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

特集 福田富一知事 三森ふみのり 県議との 新春対談

三森 知事には、新型コロナウイルス感染症対策に苦心されている中、公務の合間を縫ってお時間をいただきありがとうございます。早速ですが「新春対談」ということで話しを進めさせていただきます。

五期目の一年間を振り返って

三森 知事が五期目の当選を果たされてから、一年が経ちますが、この一年を振り返ってどんな感慨をお持ちでしょうか。

知事 新型コロナウイルス感染症への対応に全力で取り組んだ一年でしたが、そうした中においてもポストコロナを見据えて、本県の未来につながる種をまくことができたと思っています。
三森 具体的にどんな種まきがありましたか。

知事 一つは積極的なとちぎ型大使館外交を実施しました。県産品・県産農産物の輸出拡大や外国人観光客の誘致を図るため、駐日大使を自身が訪問しPRを行いました。その成果としてベトナムのファン・ミン・チン首相が来県され本県との友好交流を行うことを約束していただきました。また、来年日本で開催される予定のG7サミットについて、閣僚会議の開催地として日光市への誘致を表明しました。
三森 そのほかにもデジタル化の

推進やカーボンニュートラル（温室効果ガス排出ゼロ）の宣言など、コロナ禍の中、多くの成果をあげられたことに改めて敬意を表したいと思っています。

第七十七回国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会について

三森 さて、今年が栃木県が二巡の国民体育大会「いちご一会」とちぎ国体・とちぎ大会」が開催される予定ですが、どんな大会にしたいかお聞かせください。

知事 国体関係は、新型コロナウイルスの感染拡大で中止が続き、国体は茨城県以来三年ぶり、障害者大会は四年ぶりの開催となり、とちぎ大会には大きな期待が寄せられていると強く感じます。すでに冬季国体「ひかりの郷日光大会」は無観客での開催でしたが終了し、本県は総合七位という成績を収めることができました。

三森 いよいよ今年の十月一日には「いちご一会」とちぎ大会」が開幕する予定です。
知事 来県する多くの方々に「日本一のおもてなし」により栃木県の魅力・実力を存分に味わっていただき、本県のブランド力を向上させたいと思っています。また、本県選手のユニフォームやジャージなどに再生繊維を使うなど、環境に最大限配慮した国体」にしてゆきたいと思っています。そのうえで、是非とも天皇杯・皇后杯を獲得したいと思っています。

三森 私の地元、那須烏山市はアーチェリー、那珂川町はゲートボールの会場となりますが、私に住む地域の良さを大いにPRできる絶好の機会だと思いますので、県の方も借りながら素晴らしい大会になることを期待しています。

令和元年東日本台風（台風十九号）被害の復旧と災害に強い県土づくりについて

三森 次に、令和元年豪雨で大きな被害を被った私の地元においては、荒川の堤防増強など、今年が正味の災害からの復旧完了の年と考えています。頻発する自然災害に強い県土づくりについて、どのように進めていくのか知事の考えをお聞かせください。

知事 令和元年東日本台風による甚大な被害を踏まえ、河川の改良復旧事業等により同じ箇所が大型台風のために被災しない取り組みを進めるとともに、広域道路ネットワークの強化など、防災・減災、国土強靱化の取組みを着実に進めていきます。

三森 それらの取組みを進めるうえでの事業費の確保はどうでしょうか。
知事 令和四年度当初予算は公共事業費として前年度対比、103.8%となる461億円を確保する予定です。加えて、二月補正予算として約203億円を2月議会に提出します。

私たちの地域をどう元気にしてゆくか

三森 是非よろしくお願ひします。次に地域振興についてお尋ねします。知事は昨年「とちぎ未来創造プラン」を策定し、地域課題をデ





デジタルで解決する「とちぎデジタルハブ」の開設や、県内企業のデジタル化を支援する「とちぎビジネスAIセンター」の設置などに取り組むとしています。私はコロナ禍の中で、デジタルを活用した（リモートによる）会議や仕事の普及で、人口減少と過疎化に悩む地域に新たな人の流れがでる可能性を感じますが、**知事は地域再生のためのデジタルの活用をどう進めてゆくのでしょうか。**

知事 コロナ禍を契機に、東京圏を中心にテレワークが普及するとともに、**地方移住への関心**が高まっています。こうした動きを好機と捉え、デジタル技術も積極的に活用しながら、本県への移住・定住の促進や関係人口の拡大に取り組む、とちぎに新たな人の流れを創りだしていきます。具体的には、「**お試しテレワーク**」による本県でのテレワークや暮らしを体験する機会の提供や、バーチャル移住体験ツアーによるとちぎの魅力の発信、**交流サイト「TUNAGU**」による都市住民と中山間地域とのマッチングなどに取り組んでいきます。

「商店街」が「消店街」にならないための「笑店街」づくりについて

三森 地域の活性化についても一つ伺いますが、人口減少に歯止めがかからない地域では「**商店街**」が「**消店街**」になる傾向がどんどん進んでいます。「消店街」にし

ないためには、空き店舗対策などを今よりも強力に進めなければならぬと思います。大変難しい課題ですが、私は今後、「消店街」ではなく「**笑店街づくり**」を微力ながら進めたいと思っています。そのためには国と県、そして市町とが一体となって取り組む必要があると考えますが、いかがでしょうか。

知事 県では地域の商業団体等が取り組む事業を支援する**地域商業団体応援事業**や那須烏山市も参加している**栃木県まちなか元気会議**開催などを行っています。また、地域の事業者の皆様が「なんとかなろう！」という熱意が大切ではないかと思えます。

高速道路インターアクトセス30分構想について

三森 地域おこしや商店街再生にもう一つ欠かせないのが道路などのインフラ整備だと思っています。私の地元には国道293号や294号といった幹線道路をはじめ、多くの地方主要道路や県道が走っており、道幅が狭いところや、歩道がない箇所など改良が必要な箇所が沢山あります。そのうち、栃木県はかなり前から「**県土60分構想**」を掲げ、県内どこからでも県庁に60分で行ける道路整備を進め、一部を除けばほぼこの構想が達成されました。私は次に県にお願いしたいのが「**高速道路インターアクトセス30分**」構想です。私の

地域のようにどの高速道路インターアクトセス30分以上かかる地域の解消を目指して欲しいと思います。知事は今後の本県の道路ネットワークづくりについての考えをお持ちですか。

知事 栃木県は「**県土60分構想**」の理念のもと道路整備を進めてきた結果、県庁までの60分到達圏及び高速インターチェンジ30分到達圏の人口カバー率は90%以上を達成しました。しかし、県議の住む**県東部地域は、高規格道路の空白域**であります。このような状況も踏まえて、昨年6月に広域道路ネットワーク計画推進の基本方針として「**とちぎの道路・交通ビジョン2021**」を策定しました。その中で県東部地域のミッシングリンクを解消するため「**（仮称）つくば・八溝縦貫・白河道路**」と

（仮称）北関東北部横断道路」を新たに「**構想路線**」として位置づけました。

鳥山高校と馬頭高校の魅力度アップについて

三森 最後に、県立高校の再編について伺います。那須烏山市には**鳥山高校**、那珂川町には**馬頭高**



旧鳥山高校創立者の川俣英夫氏と旧鳥山女子高校創立者の新井萬吉氏の銅像が並び立つ鳥山高校

校の二つの県立高校があります。県教育委員会は現在、有識者による「**県立高校の在り方検討会議**」を設置しており、今年度中には検討会議の答申がまとまり、来年度には**第三次高校再編計画**を発表する予定となっております。第二次再編では鳥山高校と鳥山女子高の合併がありました。今回の再編計画で両校とも特色ある新しい高校として今後とも地域とともに存続することを目指しています。知事は本県の人の今後の在り方についてどのような考えをお持ちかお聞かせ下さい。

知事 私は知事就任以来、とちぎをつくる**原動力は「人」**であると

の強い信念のもと、教育や子育て環境の充実に全力で取り組んできました。今後も人口減少や少子化が進むと思われませんが、次期高校再編計画については有識者会議の提言も踏まえつつ、地域の県民や生徒、保護者の意見も十分参考にしながら、将来の子供たちにとって**望ましい県立高校づくり**を進めていきます。

鳥山高校と馬頭高校の魅力をアップについて

三森 私は昨年十二月の質問でも

取り上げましたが、文部科学省は「**令和の日本型教育**」の構築を目指し、**高校の「普通科改革**」を推進しています。その中で、普通科に特色を持たせるために、いくつかの学問分野にまたがる**新しい分野（学際領域）**を学科として設けることができると思っています。たとえば**Society5.0**社会とかゼロカーボン社会などの分野でも設けられるとされています。是非、このような新しい分野の学科を鳥山高校に設けて欲しいと思います。また、馬頭高校は全国で**ただ一つ内水面の水産科**がある高校として、那珂川町や地元の方々の協力

も得ながら、全国から生徒が入学できるようにするための下宿先の確保などを、県としても考えていく必要があると思います。また、農業と工業・商業などを結びつける**6次産業化**に関する学科の創設も有効だと思えます。いずれにしても地元の皆様と連携しながら、両校が今後とも存続できるよう頑張りますので、知事の応援もよろしくお願います。

知事 ご意見も踏まえ、教育委員会と連携して魅力ある県立高校づくりに取り組んでいきます。

鳥山高校と馬頭高校の魅力をアップについて

三森 知事にはお忙しい中、長時間ありがとうございます。ご質問です。

「**県立高校の在り方検討会議**」を設置しており、今年度中には検討会議の答申がまとまり、来年度には**第三次高校再編計画**を発表する予定となっております。第二次再編では鳥山高校と鳥山女子高の合併がありました。今回の再編計画で両校とも特色ある新しい高校として今後とも地域とともに存続することを目指しています。知事は本県の人の今後の在り方についてどのような考えをお持ちかお聞かせ下さい。



大きな水槽が並ぶ馬頭高校水産科実習場

みもり 文徳 三森 県議会 ●一般質問(抜粋)●

○今後の米づくりと作付転換の推進について
問 更なる作付転換には、大きな困難が伴う。主食用米から飼料用米などに転作するのか、露地野菜などの園芸作物に転作するのか、どちらを選ぶにしても、これまで以上に支援が必要であり、県独自の対策を講じるべきと考える。県は、今後どのように進めていくのか。
答 【知事】 米づくりについては、品種構成の見直しやブランド力向上による販売強化に取り組むとともに、生産コストの低減や輸出用米の拡大などを図る。また、作付転換の加速化に向けては、露地野菜の産地づくりを推進するほか、大豆の収穫機械の導入を支援していく。また、飼料用米への転換や、飼料用とうもろこしなどの生産拡大を推進していく。

○次期県立高校再編計画について
問 次期再編計画は現在、有識者の検討会議で議論されているが、国は高校の普通科の特色化をはかる「普通科改革」を進めようとしているが、県では普通科の魅力度アップをどのように進めるのか。また、中高一貫校の設置拡充や、生徒の減少による特例校などの周辺校をどのようにしてゆくのか。
答 【教育長】 有識者会議では普通科に単位制の導入を促進すべきや、中高一貫教育校を増やすべきとの意見が出されている。特例校については、地域との連携・協働による特色ある学びなどを推進すべきとの意見が挙がった。今後は会議からの提言を踏まえ、県立高校の将来構想を策定していく。

次回号について

次回は、県の当初予算の目玉や南那須地域の農業についてを特集します。



皆様のご意見をお待ちしています。 三森文徳事務所 Fax. 0287-83-1439 E-mail. nasukarajimin@gmail.com